



京都府本部総会で挨拶を行う  
原田完府本部長



(543号付録)  
京都版 第411号  
2019年9月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
京都府本部

〒604-8854  
京都市中京区壬生仙念町  
30-2 労館5階  
国民救援会京都府本部内  
(電) 075-801-3915

## 京都府本部が第34回総会を開催！

改憲・戦争する国へ突き進む安倍政権打倒！  
同盟運動の更なる発展・強化を！

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部の第34回総会が、8月31日に開催されました。

最初に原田 完会長が、ここ1年間に亡くなられた17人の会員に黙祷を捧げ、開会挨拶を行いました。日本共産党倉林明子参議院議員と民青同盟府委員長が参加され挨拶されました。メッセージは、治安維持法国際同盟の中央本部と近畿5府県本部、国民救援会、新社会党京都府本部、日本共産党京都選出国会議員から寄せられました。

講演は、「谷善を語る会」の藤田 洋さんの「治安維持法と谷善」でした。

討論は活発に行われました。中京支部の結成。宇治洛南支部の活動、特に上映運動に力を入れたこと。署名運動に力を入れる京丹後支部の活動。マスコミで韓国との軋轢や昭和天皇の美化等がひどいこと。戦争展で同盟に入会した会員が宗教弾圧で発言されました。

討論の後、活動報告と方針、会計報告と予算、監査報告を承認し、新たな役員を選出しました。会長に再任された原田 完会長が役員を代表し、決意表明を行いました。総会は終了しました。



### 治安維持法と谷善 (1)

#### 「谷口善太郎を語る会」

藤田 洋

さながら中止を要請しました。「憲法違反の極端の疑いがある」と実行委員長の大村愛知県知事は反論しましたが、展示は中止しました。

安房岡に娘ひるの報道は、NHKをはじめとするマスコミ各社に異常に増え、まるで国民統制を強いた戦前に回帰するような有様です。

憲法を変えようとする安倍首相の最近の活動は、異様です。「備用工の慰謝料問題」に関して真実を捻じ曲げ韓国の約束違反と演出し、マスコミを総動員して国内世論を「嫌韓ムード」に煽り立て、輸出規制などの貿易問題で韓国を敵国扱いした攻撃を始めました。「無礼者」と隣国を対等としない傲慢な安倍内閣は世界から反シニユクされますが、今もって多くの国民が「嫌韓愛国」熱気に煽動されています。

さらには「あちち下りエンターテインメント」の「表現の不自由展・その後」(ここには、慰安婦を表現した少女像や各地の美術展で撤去されるなどした千数点が展示)に対して、ものすごい数の脅迫がSMSや電話で行われ、慰安婦の存在をいかに不正とする河村や吉原市長らは横断

谷善の姿を、京都東山の地域の人々様子から見ることができません。谷善が代議士として存命していた年代初期の頃です。選挙中に今熊野商店街へ姿を見せた谷善に向かって「たいせん、せんさん」という人々のざわめきがして、買い物客も商店の人々がワッと集まる瞬間を自撃したことがあります。まるで大スターの登場のようで、梶川知事が「京のまち京のひと谷善の顔がある」と詠んだのは、こうした情景なのでしょう。この地域の人々にとって「たいせん」は、「清水焼風景」などを描いた小説家であると同時に清水焼の労働者であり、陶磁器労組や労働学校の専従、共産党創立からの党員として活動家を買った人であり、地域産業を住民の要求実現を奔走したヒーローです。谷善には、人々を引き付ける魅力がいっぱい溢れていました。この時期の東山又は、谷善と一緒

戦前からの労働運動。共闘した人々や同郷の幼友達、谷善の提唱する共同労働運動に参加し戦後の物産反対運動の主力となった清水焼業者も多

くいました。現代陶芸の「走泥社」の人たちもいました。戦前戦後の党指導部には細川三吾さんや小柳津恒さん、三・一五事件の同室高木藤之助を支えたマヌ夫人や西村さん、柳さんや南さん、奥村夫妻、源さん夫妻、陶方の加藤護一さんと民間創立メンバーの加藤さん勝野さん木村さん亀井さん大野さん太吉さんや婦人運動の城ユキ子さん松田さん佐々木さん釜屋さんなど多くの方々からも谷善のことを聞く機会に恵まれる70年代でした。

谷善への呼び方は一律でなく「たいせん」「たいせんさん」「せんさん」と呼ぶ人たちが少なからずいました。「たいせん」と呼ぶのは、組合の活動家と言われる人で、親しみをこめて「せん」ついで呼ぶのは、たいいてい婦人活動家でした。昭和の初めに谷善から工場に「セッキ」や「ゼンエイ」を借りるよう頼まれていた同窓婦人は、当時も今も「たいせんさん」と「せん」付で呼びました。もともとくたはて「せんさん」と呼ぶ職人もありました。谷善が陶

①東山の人々から見た谷善



器職人として勤めた徳元の松田さんは「いつもちびた下駄履いていた」とくたびれた調子で話してくれ「特高がロク口場へ踏みこんだ時は響器をこし大損した。とにかく逃げるのが早い。ほんでえ、しばらくすると雇ってもらえんかと頼みに来る。ときどき政治の話もするが真面目で憎めん人やった」と当時の出来事を出し、懐かしそうな表情が印象的でした。また「京の名」陶器上総村の堀外吉さんは「せんさんは、よく仕事場に来て丸谷焼の昔話なんかをした。仕事の上の苦勞話もよく聞いてくれる仲間だよ。轉機はうまくいった。田舎の饅頭が好きやっただな」と話します。谷善が、警官に自見監禁された時期「正月べつには挨拶しようと思ひ、警官の隙を見て女関戸に名刺をそっとはさげた」と言っていた陶土も「せんさん」と呼びました。谷善とその仲間達どう表現しても、そこに谷善がいるように話してくれました。

谷善の代表作「清水榎風景」を読むと、当時の人々の仲間意識や庶民

感情が豊かによみがえり、作家の労働者・働くものに対する暖かい視線に気づかされます。

②谷善が遭遇した3・15事件

昭和3年の3・15事件は、谷善の人生を大きく変える衝撃的な出来事でした。それは兵隊党の組織的破壊を目的として全面的規模で行われた最初の弾圧事件です。谷善は、警官の激しい暴行を直接受けた当事者であり、事件の全休像を知る党の指導者の一人です。

事件の様子は小林多喜二の小説「一九八・三・二五」でおおまかを知ることが出来ます。公式な文献として山本宣治代議士による一九五五年(昭和四年)二月八日の第五分科会「予算委員会第二分科会」の「拷問・不法監禁に対する質問議事録に、国家権力に対する渾身の怒りを込めた追及が記録されています。ここでは戦後谷善自身が事件の核心を述べた「前衛」掲載の「三・一五事件のこと」と、山宣の「三・二五事件に関する国会議事録から一部を

紹介します。革命的政治家、谷善の本領が發揮された文章です。

(前衛 1961年3月号)「3・15事件のこと」谷善大郎より

一九八三年三月二十五日の、敵のわが党に対する大弾圧事件(三・二五事件)は、せまり来る日本資本主義の危機を大陸侵略——戦争によって打開しようとした敵が、わが労働者階級・人民との最初の激突であった。わたしは編集部の「三・二五事件の思い出を随筆風にかき」という注文もあって、いまのことを政治経済的に、理論的に記述することをさひるが、次の点だけは最初についておきたい。「三・二五事件」をもって、たまた敵弾圧された事件、党が大損害をうけた事件、とだけ見るとは間違ひだといつてきた。たしかに党は大損害をうけた。とくに二七

テーゼによつて、党が史上はじめて公然の活動と大衆の方向へ大転換をうけたと出づればの弾圧だっただけに、被害の大きさはのちのちにも

たえた。しかし、同時に、党と労働者階級はこれたかいかを押しつづきの勝利を得た。第二に、この事件によつて、労働者階級の大衆と広範な人民は、くさのきつた資本主義の諸相とそれからのがれてる唯一の道

——党の綱領とたたかひを知った。

敵は弾圧によつて一挙に党の壊滅をくわだてたが、かえつてそのことによつてより広範な大衆に党と革命の宣伝の機会をつづけた。これは事物の矛盾の皮肉な本質である。第二に、党はこれたかいかによつて、それまでの日本の党にかけていたもの——大衆をかたくむすぶつき、強固な規律と意志で団結した。いかなる弾圧のなかでも革命的行動を継続しつるホルシェビキ的地下組織——真に革命党として組織的規律と戦術を習熟したのである。三・二五事件によつて党は壊滅しなかつたばかりか、反対にますます多くの大衆を獲得して発展していった歴史的出来事は、このことを証明している。

(次号に続く)





講演する成澤栄壽さん



パネル展の前で談笑する参観者

日本の国は再び戦争しない  
固く誓いました  
戦争反対 心から訴えます  
君につたえる 君がつたえる  
第39回「平和のための京都の戦  
争展」開催される！

毎年恒例の京都の戦争展が、  
立命館大学平和ミュージアムで

人の熱気に包まれました。展示  
資料は600点、文化企画、PT

7月29日〜8月4日開催  
されました。今回の参観  
者数は、2782人。特  
に8月4日のメイン企画  
「高石ともや 君につたえ  
る 君がつたえる フォー  
クフェスタ」は、250

ススクール、スティーシ企画に38  
団体が参加しました、  
国賠同盟は、パネル展示と講

演会を主催しました。講演は  
「平和を願うー自らの体験を踏  
まえて」で、講演者は、日本近  
代史専門の元長野県短期大学長  
で前部落問題研究所理事長の成  
澤栄壽（なるさわえいじゅ）さ  
んでした。自民党政権が戦

争への道を突き進む時、改  
めて平和への願いを熱く語っ  
て頂きました。

寄せられた感想です。  
「戦前、戦中の話を伝える  
ことが、今後難しくなっ  
ていくかと思いますが、どう  
つなげていくか、今安倍政  
権の下、その動きが押さえ  
つけられるかもと危惧して  
います。このような講演会、  
学習会をぜひ続けて下さい」。

総会で選出された府  
本部役員

- 〈会長〉原田 完
- 〈副会長〉佐藤 和夫
- 〈事務局長〉三原 哲
- 〈事務局次長〉藪田均男（新）
- 〈常任理事〉
- 杉山 勉 藤原 元幸
- 水口 武夫
- 〈理事〉
- 有元 美津子 河野 暉夫
- 川久保 雄二郎 小林 東一
- 白子 譲 田口 克己
- 中村 勝巳（新） 林 森一
- 松村 満行 山本 隆
- 吉田 登子
- 〈会計監査〉
- 木村 充 山田 清
- 〈顧問〉
- 東 理代吉 三双 順子
- 芝井 清生 宮城 日出年